

# 編 修 趣 意 書

## (教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-101	中 学 校	技術・家庭	技術・家庭 (技術分野)	第1～3学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
009 開隆堂	技術 704	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて		

### 1. 編修の趣旨及び留意点

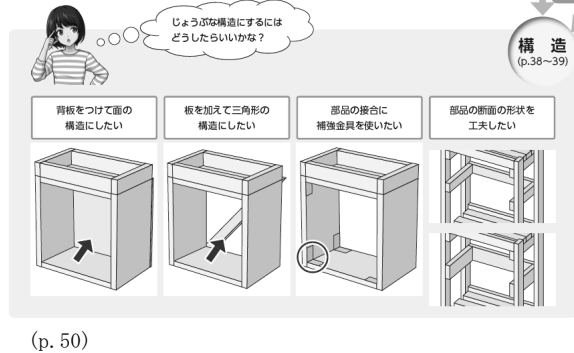
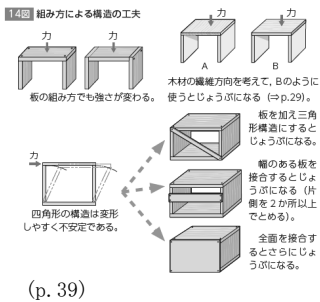
① 編修の趣旨 教育基本法の趣旨を踏まえた上で、下記のような趣旨のもとに編修を行った。

- 製作・制作・育成などの実践的・体験的な学習活動を豊富に設定し、その活動を通して、生徒が自立して主体的によりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて必要とされる**基礎的・基本的な知識および技術**を習得できるように編修する。
- 実習を行う際には、科学的な原理・法則などを踏まえて計画・設計し、身体的な技能などを用いて具体的な物が創造できるように編修する。

科学的な原理・法則の  
学習

科学的な原理・法則を踏まえた計画・設計

具体的な物の創造



- 基礎的・基本的な知識および技術の習得を通して、社会や環境と技術とのかかわりについて理解を深め、**環境の保全に寄与する態度**を養えるように編修する。
- 学習活動では、**創造・工夫する力**、**他者とかかわる力**、**知的財産を尊重する態度**、**技術にかかわる倫理観**、**緻密さへのこだわり**、**忍耐強さなどの育成**が図れるように編修する。
- 生活上において生じる問題に対して、自分なりに課題を設定し、工夫・創造して解決することができる**問題解決能力**を育めるように編修する。
- 我が国における技術に関する**伝統・文化や歴史**を知り、我が国を愛する態度を育めるように編修する。また、技術に関する**職業や生活との関連**を示し、**勤労を重んずる態度**を養えるように編修する。

各内容の最後では、**社会や環境と技術とのかかわりについての理解に基づき、技術の在り方や活用の仕方を客観的に判断・評価し、主体的に活用しようとする態度**が育めるように編修した。

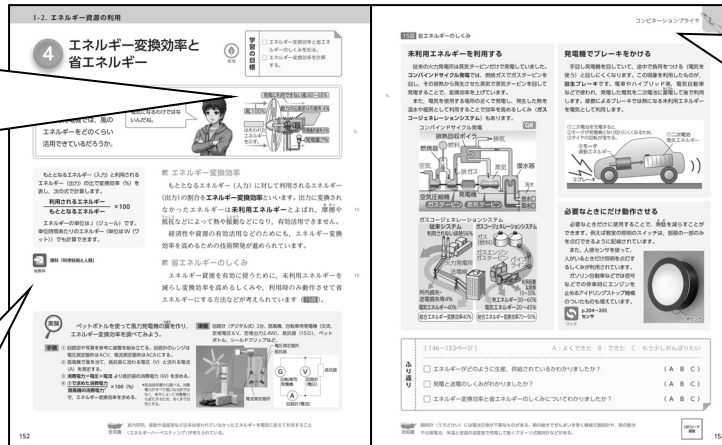


## ② 留意点

上記の編修の趣旨をもとに、下記のような点に留意して編修を行った。

学習項目ごとに目標を、大きな学習のまとまりの最後には、学習を振り返る場面を設けて、生徒が主体的に学習に取り組めるよう構成する。

基礎的・基本的な内容が確実に習得できるように、内容を精選し的確な記述をする。



(p. 152-153)

学んだ知識や技術が生活に生かされるように、学習の展開やまとめを工夫する。

紙面のレイアウトやデザイン、記述のしかたについて、見やすく、読みやすく、わかりやすく、使いやすいものとする。

- 生徒が興味・関心をもって学習にのぞめるように、学習意欲を高められる写真やイラスト、図表、コラムなどを多く用いる。
- より多くの実践的・体験的な学習活動や実践例を掲載し、状況に応じた学習活動が選べるように工夫する。

## 2. 編修の基本方針

教育基本法の第2条に示される教育の目標を達成するために、技術分野の編修基本方針を以下のように設定した。

- 幅広い知識と教養の基盤となる、技術分野の基礎的・基本的な知識や技能を、確実に習得できるようにするとともに、生活の中の真理を追究できるようになるために、科学的な根拠をもとに、技術を理解・習得できるようにする。
- 「自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する」問題解決的学習を通して、創造性や自主性及び自立性を養うことができるようにする。
- 家族や友人、地域の人たちとの触れ合いやかかわりを通して、感謝の気持ち、自分や他者の尊重、男女の平等、家庭や地域への協力などの態度が育めるようにする。
- 技術に関する職業の理解を通して、職業観・勤労観を育み、勤労を重んずる態度を養えるようにする。
- 技術と社会・環境とのかかわりの理解を通して、生命や自然への敬意、環境保全に寄与する態度、他者や自然と共生する態度を養えるようにする。
- 日本の伝統的な技術を知り、先人の知恵や技能が日本の文化を支え、発展させてきたことの理解を通して、日本の伝統と文化のすばらしさを理解し、自らの生活の中で継承・発展できるようにする。

» 身近な問題の発見

幼い家族は洗面台に届かないので、以前使っていたいすの上に乗って顔を洗っていますが、高さがあっておらず危険です。また、いすが壊れそうです。

他者を尊重し、家族のために問題を解決しようとする例。

(p. 60)

## 3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	箇所(ページ)
教科書全体を通して	基礎的・基本的な知識や技能が、過不足なく、確実に習得できるようにした。(第1号)	すべてのページ
	イラストや写真などにおいては、男女の平等などに留意した。(第3号)	すべてのイラスト・写真

<b>ガイダンス</b> <b>生活や社会における</b> <b>技術の役割</b>	技術に関する職業を取り上げ、勤労観を養えるようにした。 (第2号)	8~9
	さまざま場面で、協力を重んずる態度、自他の敬愛、男女の平等などを養えるようにした。(第3号)	6~7, 13
	随所に環境を保全する技術、自然と共生する技術の考え方を示し、環境の保全に寄与する態度を養えるようにした。(第4号)	17
	日本の伝統的な技術について取り上げ、先人への敬意、日本の伝統と文化のすばらしさが理解できるようにした。(第5号)	11
	日本の伝統的な技術や、日本で生まれた技術、他者や他国の人々との共生という考えを取り上げた。(第5号)	16, 18~19
<b>A</b> <b>材料と加工の技術</b>	科学的な根拠やしくみの理解をもとに、技術を理解・習得できるようにした。(第1号)	26~39
	実習例については、工夫し、創造する態度を育めるように、工夫の観点を掲載した。(第2号)	56~67
	技術に関する職業を取り上げ、勤労観を養えるようにした。(第2号)	25, 27, 93
	さまざま場面で、協力を重んずる態度、自他の敬愛、男女の平等などを養えるようにした。(第3号)	44~45, 47, 52~53, 60~61, 71
	技術の評価・活用を通して、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにした。(第3号)	88~91, 93
	随所に環境を保全する技術、自然と共生する技術の考え方を示し、環境の保全に寄与する態度を養えるようにした。(第4号)	26, 31, 37, 87, 89, 90~91
	日本の伝統的な技術について取り上げ、先人への敬意、日本の伝統と文化のすばらしさが理解できるようにした。(第5号)	21, 32~33, 35
<b>B</b> <b>生物育成の技術</b>	科学的な根拠やしくみの理解をもとに、技術を理解・習得できるようにした。(第1号)	102~113
	実習例については、工夫し、創造する態度を育めるように、工夫の観点を掲載した。(第2号)	120~133
	技術に関する職業を取り上げ、勤労観を養えるようにした。(第2号)	115, 136~137
	さまざま場面で、協力を重んずる態度、自他の敬愛、男女の平等などを養えるようにした。(第3号)	116~117, 120, 128, 134~137
	技術の評価・活用を通して、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにした。(第3号)	134~137, 139
	随所に環境を保全する技術、自然と共生する技術の考え方を示し、環境の保全に寄与する態度を養えるようにした。(第4号)	97, 107, 111, 112~113, 132~133, 136~137, 139
	生命の尊さについて記述した。(第4号)	101, 106, 108
日本の伝統的な技術について取り上げ、先人への敬意、日本の伝統と文化のすばらしさが理解できるようにした。(第5号)	95, 100, 119	

<b>C</b> <b>エネルギー変換の技術</b>	科学的な根拠やしくみの理解をもとに、技術を理解・習得できるようにした。(第1号)	146~177
	実習例については、工夫し、創造する態度を育めるように、工夫の観点を掲載した。(第2号)	180~187
	技術に関する職業を取り上げ、勤労観を養えるようにした。(第2号)	173, 179
	さまざまな場面で、協力を重んずる態度、自他の敬愛、男女の平等などを養えるようにした。(第3号)	140~141, 146, 152, 154, 164, 179, 182~185, 187, 188, 190
	技術の評価・活用を通して、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにした。(第3号)	188~191, 193
	随所に環境を保全する技術、自然と共生する技術の考え方を示し、環境の保全に寄与する態度を養えるようにした。(第4号)	143, 147, 149, 151, 152~153, 179, 188~191
	日本の伝統的な技術について取り上げ、先人への敬意、日本の伝統と文化のすばらしさが理解できるようにした。(第5号)	141
<b>D</b> <b>情報の技術</b>	科学的な根拠やしくみの理解をもとに、技術を理解・習得できるようにした。(第1号)	200~237
	ものづくり活動全体を通して、知的財産を尊重し、活用する態度を養えるようにした。(第2号)	234~237
	実習例については、工夫し、創造する態度を育めるように、工夫の観点を掲載した。(第2号)	242~246, 252~259
	技術に関する職業を取り上げ、勤労観を養えるようにした。(第2号)	247, 255
	さまざまな場面で、協力を重んずる態度、自他の敬愛、男女の平等などを養えるようにした。(第3号)	200~211, 232, 234, 243~245, 247, 248, 261
	技術の評価・活用を通して、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにした。(第3号)	260~263, 265
	随所に環境を保全する技術、自然と共生する技術の考え方を示し、環境の保全に寄与する態度を養えるようにした。(第4号)	262~263
	技術による障がいがある人たちなどとの共生の視点を取り上げた。(第4号)	218~219
日本の伝統的な技術について取り上げ、先人への敬意、日本の伝統と文化のすばらしさが理解できるようにした。(第5号)	195, 256	
<b>技術分野の学習をふり返り、私たちの未来へつなげよう</b>	技術に関する職業を取り上げ、勤労観を養えるようにした。(第2号)	268~269
	技術の評価・活用を通して、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるようにした。(第3号)	266~267
	随所に環境を保全する技術、自然と共生する技術の考え方を示し、環境の保全に寄与する態度を養えるようにした。(第4号)	268~269
	日本の伝統的な技術について取り上げ、先人への敬意、日本の伝統と文化のすばらしさが理解できるようにした。(第5号)	292~294

#### 4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

教育基本法第5条に示される義務教育の目的や学校教育法第21条に示される義務教育の目標などを達成するために、編修上特に意を用いた点や特色は、以下の通りである。

- 教科書の最初の内容として、ガイダンス的な内容である「生活や社会における技術の役割」を設定し、技術分野の学習に対する意識付け、興味・関心が引き出せるようにするとともに、勤労を重んずる態度を養えるように編修した。
- 技術と産業とのかかわりについて理解が深まるように、随所に具体例を掲載して編修を行った。

勤労に携わる人へのインタビューを掲載することで、職業に関する理解を深めるとともに、勤労を重んずる態度を養えるようにした。

(p. 8-9)

- ガイダンスでは先人たちの智慧や技術の素晴らしさについて知るとともに、各内容の扉では日本と世界における主な技術の歴史を取り上げることで、我が国と外国の歴史を知り、我が国を愛し、他国を尊重する態度を養えるようにした。

ガイダンスでは、先人たちの知恵や技術に触れるとともに、それを受け継ぎ発展させていくことに興味・関心をもてるようにした。

(p. 19)

- 製作品を図や表を用いてわかりやすく表現するとともに、成果の発表や自己評価、相互評価を行うなどの言語活動を充実させ、言語能力を養えるように配慮した。
- 科学的な根拠を伴い技術を理解できるように、適宜「実験」や「調べ学習」を取り上げた。
- 作業中の事故防止を重視し、「安全」に関するマークを用いたり、折込を用いて安全に関する内容を取り上げたりすることで、安全に関する注意を喚起できるように編修をした。

- 巻末では、資料としてアプリケーションソフトウェアの操作方法やプログラミング、携帯電話の利用に関する注意点を掲載するなど、本文以外の部分においても情報を適切に扱えるように配慮した。

(p. 295-④)

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
31-101	中 学 校	技術・家庭	技術・家庭 (技術分野)	第1～3学年
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
009 開隆堂	技術 704	技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### 【本教科書の基本構成】

◎技術の見方・考え方を働かせ、よりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成するために、技術分野で設定されている4つの内容にガイダンスとまとめとなる内容を加え、全部で6つの学習内容と資料とで編修しました。

学習を終えてから全体を通したまとめとなる内容を教科書の最初にしました。

(p. ③)

もくじ 技術分野の学習を始める前に 1 作業の安全 3 技術分野の学習の流れ 6 企業のものづくりの流れ 8	<b>ガイダンス</b> ① 技術の役割 10 ② 技術の見方・考え方 14 ③ 技術と生活・産業 16 ④ 技術とエネルギー環境 17 ⑤ 受け継がれ発展する技術 18
<b>A 材料と加工の技術</b> とびら 20 ① 生活や社会と材料と加工の技術 22 ② 材料を利用するための技術 26 ③ 1 問題解決の手順 44 ③ 2 製作のための技能(木材) 68 ③ 3 製作のための技能(金属・プラスチック) 80 ③ 4 これからの材料と加工の技術 88 学習のまとめ 92	<b>B 生物育成の技術</b> とびら 94 ① 生活や社会と生物育成の技術 96 ② さまざまな生物育成の技術 100 ③ 生物育成の技術による問題解決 114 ④ これからの生物育成の技術 134 学習のまとめ 138
<b>G エネルギー変換の技術</b> とびら 140 ① 生活や社会とエネルギー変換の技術 142 ② エネルギー資源の利用 146 ③ 電気の利用 154 ④ 運動の利用 168 ⑤ エネルギー変換の技術による問題解決 178 ⑥ これからのエネルギー変換の技術 188 学習のまとめ 192	<b>D 情報の技術</b> とびら 194 ① 生活や社会と情報の技術 196 ② 情報とコンピュータ 200 ③ 情報の収集と伝達 218 ④ 情報セキュリティと情報モラル 228 ⑤ 双方向性のあるコンテンツによる問題解決 238 ⑥ 計算・制御による問題解決 248 ⑦ これからの情報の技術 260 学習のまとめ 264
技術分野の学習をふり返り、 私たちの未来へつなげよう 266 ① 技術分野での問題解決をふり返ろう 266 ② 技術の工夫・創造と私たちの未来 268	<b>資料</b> コンピュータの基本操作 270 プログラミング 280 さくじん 288 日本各地の伝統的な技・材料・工芸Map 292 携帯電話の利用 こんにちはどうする? 295

3年間の学習の見通しを立てさせるガイダンス的な内容を教科書の最初にしました。

巻末には、コンピュータの基本操作やプログラミングなどの充実した資料を掲載しました。

◎A, B, C, Dの各内容については、学習の動機づけ、基礎・基本の確実な習得、問題解決の実施、学習内容のふり返りや評価・活用を重視して、次のように組織しました。



身近な技術を調べる活動を通して「技術の利用に関する工夫」や「技術のしくみ」に気づくとともに、「科学的な原理・法則」を踏まえ技術・技能の基礎・基本を学びます。

問題を発見し、自ら設定した課題を解決するための計画の立案と実行、活動の評価と改善を行います。

これまでの学習をふり返りながら、技術の概念について理解を深め、技術の評価し活用について考えます。



## 【 確かな学力を身につけさせるための工夫 】

- ◎本文の記述は、基礎・基本と参考・探究等の区分を明確にし、学習内容の精選と重点化が図れるようにしました。また、基礎・基本的な内容の理解を助けるために、分かりやすい図版・イラスト・写真を多数掲載し、必要性のあるものについては、生徒の目線で撮影したり描写したりしました。
- ◎**アクティブ・ラーニングの視点**に立った授業を推進するために、各小項目の冒頭に設けられた「導入課題」を通して生徒が授業への積極的に取り組む動機づけとなるように配慮しています（主体的な学び）。また、適所に配置している「実験」や「課題」などの活動を通して、他者との関わり合いをもちながら、技術の理解を深めることができます（対話的な学び、深い学び）。
- ◎**問題解決的な学習を重視し**、生徒に「生きる力」が確実に身につくように工夫しています。

「身近な問題の発見」  
庭には、きれいな植物がたくさんありますが、鉢が乱雑に置いてあり、鑑賞するのに見栄えがあまりよくありません。鉢をきれいに整えて、鑑賞しやすい庭にしたいのに困っています。

「社会とのつながり」  
・さまざまな植物が、鑑賞しやすいように収納できる。  
【機能性の発見】  
・植物が整理しやすく、じょうぶで長持ちする。  
【機能性の発見】

「課題の設定」  
鑑賞するのに見栄えがよく使いやすい鉢入れを作って、植物を収納しよう。

たくさん収納できる鉢入れがいいね。

持ち運びやすさも重要だね。

用材を使って、軽量化できないかな？

「設計・製作」  
◆見栄えのよいデザインであること。  
◆取っ手の取り付けが容易なこと。  
◆軽くてじょうぶな構造であること。

スケッチ      試作模型例

「評価・改善」  
◆見栄えのよいデザインであるか。  
◆取っ手の取り付けが容易か。  
◆持ち運べるくらい軽くてじょうぶなものであるか。  
完成作品例

実習例では、わかりやすくかつ確実に問題解決能力が身につくように、問題解決の流れを例示しています。

(p. 64-65)

- ◎各内容の終わりのページには「学習のまとめ」を設けました。「学習をふり返ろう」では学習のまとめや自己評価ができるように、「学びを深めよう」では具体的な事例を通して適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする態度を養うことができるようにしました。

## 【 安全教育への配慮 】

- ◎作業中の事故防止を重視し、折り込みを使って安全に関する内容を取り扱いました。また、本文各所の作業場面には「安全マーク」を付して、それぞれの作業に即した注意点を記述しました。

**作業の安全**

作業に入る前は、安全安心に心がけるようとして、以下のチェックリストを持って安全確認しましょう。

**作業場の点検**

- 作業現場が安全で、作業の妨げがない。
- 作業現場が清潔で、作業の妨げがない。
- 作業現場が安全で、作業の妨げがない。

**作業服の点検**

- 作業服が安全で、作業の妨げがない。
- 作業服が清潔で、作業の妨げがない。
- 作業服が安全で、作業の妨げがない。

**作業道具の点検**

- 作業道具が安全で、作業の妨げがない。
- 作業道具が清潔で、作業の妨げがない。
- 作業道具が安全で、作業の妨げがない。

**作業方法の確認**

- 作業方法が安全で、作業の妨げがない。
- 作業方法が清潔で、作業の妨げがない。
- 作業方法が安全で、作業の妨げがない。

**安全を確認しよう**

作業中は、多くの工具やコンピュータなどの機器を使用します。けがや事故につながる行動や使用法を避けて、安全作業を行います。

作業中は、安全マークを付けて作業を行います。

作業中は、安全マークを付けて作業を行います。

作業中は、安全マークを付けて作業を行います。

**コンピュータ機器での作業**

作業中は、安全マークを付けて作業を行います。

作業中は、安全マークを付けて作業を行います。

作業中は、安全マークを付けて作業を行います。

安全に関する内容を、折り込みを使って示しています。

(p. 2-5)

## 【 循環型社会への対応 】

- ◎ガイダンスをはじめ、本文の随所に、技術と環境との関わりについての記述を行い、循環型社会や持続可能な社会について考えながら学べるように配慮しました。

「環境マーク」を付して、環境についての意識を高め、循環型社会に対応していく態度が身につくように配慮しました。

「防災マーク」を付して、防災への意識を高めることができるように配慮しました。

## 【 防災教育への配慮 】



- ◎防災と技術との関わりを重視し、随所に防災に関する内容を取り扱いました。


(p. 93)

**探究** CLT(クロス・ラミネイティッド・ティンバー)

木造建築用の新しい材料として、CLTが注目されています。CLTとは、幅のある木材の板を並べた後、合板のように、繊維方向が直角に組み合わせるように接着した木質材料です。板を交互に組み合わせて接合することで、どの方向にも強さが均一になります。スギやヒノキのような木材を利用して、一定の強さの厚い材料を作ることができます。

CLTは厚みのある板が製造可能で、じょうぶさが向上した木質材料といえます【耐久性】。耐火性や耐久性などの問題から、これまで木材が使われてこなかった中高層の建築物にも使用できます。建築用の材料としては、断熱性や熱性、しゃ音性などに優れています【機能性】。じょうぶな面の構造をもつことで地震の揺れに強くなります【安全性】。人工林を活用することで、環境に負荷の少ない材料として利用が期待されています【資源の有効利用】。



CLTで製作した建築物の振動実験の様子

【 造本・体裁上の工夫 】

◎判型をA B判とすることで、内容の充実を図るとともに、図や写真を大きく示すことで生徒が理解をしやすいようにしました。また、前後見返しと本文との間に折り込みを挿入してパノラマ風に内容を展開し、生徒の興味・関心を喚起するように工夫しました。

◎「リンクマーク」を用いて他の内容との関連を示すだけでなく、家庭分野や他教科、小学校との関連も明確に示しカリキュラム・マネジメントの実現ができるように配慮しています。

◎特別な支援を必要とする生徒への配慮として改行のしかたなどに気を配り、言葉の判別がしやすくなるようにしています。

■ 発電所からの送電

電気は遠く離れているところにも送電できますが、送電線で電流に応じて一部の電気が失われるため、遠くなるほど効率が悪くなります。発電所で電圧を上げてから送電すると送電線を通る電流は小さくなるため、送電の効率が上がります(13頁)。

言葉の判別がしやすいために改行をしています。

(p. 150)

◎カラーバリアフリーデザインに配慮するとともに、環境保全の一環として、印刷インキに環境にやさしい大豆油インキを採用し、用紙は再生紙を使用しています。

2. 対照表

図書の構成・内容			学習指導要領の内容	該当箇所(ページ)	配当時間
大項目名	中項目名	小項目名			
		「技術」はいつも私たちのそばに	A(1)イ,B(1)イ,C(1)イ,D(1)イ	前見返し①～②	1
		もくじ ～3年間の学習を見通して～	A(1)イ,B(1)イ,C(1)イ,D(1)イ	前見返し③, 1～2	
		作業の安全	A(2)ア,B(2)ア,C(2)ア,D(2)ア,D(3)ア	3～5	
		技術分野の学習の流れ	A(2)イ,B(2)イ,C(2)イ,D(2)イ	6～7	
		企業のものづくりの流れ	A(1)イ,B(1)イ,C(1)イ,D(1)イ	8～9	
ける ガイダンス 技術の役割 生活や社会にお		①技術の役割	A(1)イ,B(1)イ,C(1)イ,D(1)イ	12～13	3
		②技術の見方・考え方	A(1)イ,B(1)イ,C(1)イ,D(1)イ	14～15	
		③技術と生活・産業	A(1)イ,B(1)イ,C(1)イ,D(1)イ	16	
		④技術とエネルギー・環境	A(1)イ,B(1)イ,C(1)イ,D(1)イ	17	
		⑤受け継がれ発展する技術	A(1)イ,B(1)イ,C(1)イ,D(1)イ	18～19	
A 材料と加工の技術	1-1生活や社会と材料と加工の技術	①生活や社会を支える材料と加工の技術	A(1)イ	22～23	1
		②身の回りにある材料と加工の技術	A(1)イ	24～25	
	1-2 材料を利用するための技術	①さまざまな材料と加工の技術	A(1)ア	26～27	6
		②木材の材料と加工の技術	A(1)ア	28～33	
		③金属の材料と加工の技術	A(1)ア	34～35	
		④プラスチックの材料と加工の技術	A(1)ア	36～37	
		⑤構造をじょうぶにする技術	A(1)ア	38～39	
		⑥製図	A(2)ア	40～43	
	2-1 問題解決の手順	①問題解決の流れ	A(2)イ	44～45	6
		②問題の発見と課題の設定	A(2)イ	46～47	
		③設計	A(2)イ	48～55	



		実習例1 一枚の板で製作する机の上を整理・整頓できるマルチラック	A(2)ア, イ	56~57	
		実習例2 規格材で製作する机の上を整理・整頓できるマルチラック	A(2)ア, イ	58~59	
		実習例3 安全性を重視したふみ台	A(2)ア, イ	60~61	
		実習例4 調理スペースが広がる調味料ラック	A(2)ア, イ	62~63	
		実習例5 見ばえよく植物を収納する鉢入れ	A(2)ア, イ	64~65	
		実習例6 機能性を重視したカレンダーつきメモホルダ	A(2)ア, イ	66	
		実習例7 分類して収納できる文房具の整理箱	A(2)ア, イ	67	
	2-2 製作のための技能(木材)	①材料取りと部品加工	A(2)ア	68~76	12
		②組立てと仕上げ	A(2)ア	77~79	
	2-3 製作のための技能(金属・プラスチック)	①材料取りと部品加工	A(2)ア	80~85	12
		②組立てと仕上げ	A(2)ア	86~87	
	3 これからの材料と加工の技術	①材料と加工の技術の学習をふり返ろう	A(3)ア	88~89	1
		②材料と加工の技術と私たちの未来	A(3)イ	90~91	
	学習のまとめ		A(3)イ	92~93	-
B	1-1 生活や社会と生物育成の技術	①生活や社会を支える生物育成の技術	B(1)イ	96~97	1
		②身の回りにおける生物育成の技術	B(1)イ	98~99	
	1-2 さまざまな生物育成の技術	①作物の栽培技術	B(1)ア	100~107	4
		②動物の飼育技術	B(1)ア	108~109	
		③水産生物の栽培技術	B(1)ア	110~111	
		④森林の育成技術	B(1)ア	112~113	
	2 生物育成の技術による問題解決	①問題解決の流れ	B(1)イ	114~115	4
		②生物育成の計画の立て方	B(1)イ	116~117	
		実習例1 甘みのあるミニトマトの栽培	B(2)ア, イ	120~123	
		実習例2 リーフレタスの養液栽培	B(2)ア, イ	124~125	
		実習例3 ラディッシュの容器栽培	B(2)ア, イ	126~127	
		実習例4 チューリップの促成栽培	B(2)ア, イ	128~129	
		実習例5 イネの容器栽培	B(2)ア, イ	130~131	
実習例6 乳牛の飼育		B(2)ア, イ	130~131		
実習例7 ドジョウの養殖		B(2)ア, イ	132~133		
実習例8 スギ人工林の育成	B(2)ア, イ	132~133			
3 これからの生物育成の技術	①これからの生物育成の技術	B(3)ア	134~135	1	
	②生物育成の技術と私たちの未来	B(3)イ	136~137		
	学習のまとめ		B(3)イ	138~139	-
C	1-1 生活や社会とエネルギーの変換の技術	①生活や社会を支えるエネルギー変換の技術	C(1)イ	142~143	1
		②身の回りにおけるエネルギー変換の技術	C(1)イ	144~145	
	1-2 エネルギー資源の利用	①エネルギーの利用	C(1)ア	146~147	3
		②燃料を利用した技術	C(1)ア	148~149	
		③発電と送電のしくみ	C(1)ア	150~151	
		④エネルギー変換効率と省エネルギー	C(1)ア	152~153	
	1-3 電気の利用	①電気エネルギーの特徴	C(1)ア	154~155	5
		②光や熱に変換するしくみ	C(1)ア	156~157	
		③動力や音・信号に変換するしくみ	C(1)ア	158~159	
		④電気回路と回路図	C(1)ア	160~161	
		⑤電気機器の安全な利用	C(1)ア	162~163	
		⑥電気機器の保守点検	C(1)ア	164~165	
	1-4 運動の利用	①力の伝達	C(1)ア	168~169	3
②動きを変化させるしくみ		C(1)ア	170~171		
③力や運動を保存するしくみ		C(1)ア	172~173		
④部品の固定と共通部品		C(1)ア	174~175		
⑤機械の保守点検		C(1)ア	176~177		

	2 エネルギー変換の技術による問題解決	①問題解決の流れ 実習例1 非常時に光る防災用ライト 実習例2 介助用ロボット 実習例3 持ち運べるLEDライトスタンド 実習例4:お手軽クリーナー 実習例5 音声増幅器	C(2)イ C(2)ア, イ C(2)ア, イ C(2)ア, イ C(2)ア, イ C(2)ア, イ	178~179 180~181 182~183 184~185 186 187	6
	3 これからのエネルギー変換の技術	①エネルギー変換の技術の学習をふり返ろう ②エネルギー変換の技術と私たちの未来	C(3)ア C(3)イ	188~189 190~191	1
	学習のまとめ		C(3)イ	192~193	-
D 情報の技術	1-1 生活や社会と情報の技術	①生活や社会を支える情報の技術 ②身の回りにある情報の技術	D(1)イ D(1)イ	196~197 198~199	1
	1-2 情報とコンピュータ	①コンピュータの構成 ②コンピュータの機能と装置 ③コンピュータを使って機器を自動で動かすしくみ ④コンピュータによる処理のしくみ ⑤プログラムの構造と表現 ⑥情報のデジタル化 ⑦デジタル情報の特徴	D(1)ア D(1)ア D(1)ア, D(3)ア D(1)ア D(1)ア D(1)ア D(1)ア	200~201 202~203 204~205 206~207 208~211 212~215 216~217	4
	1-3 情報の表現と伝達	①使いやすさを工夫した情報の表現 ②メディアを利用した情報の表現 ③情報通信ネットワークのしくみ ④Webのしくみと情報の表現	D(1)ア, D(2)イ D(1)ア, D(2)イ D(2)ア D(2)ア	218~219 220~221 222~225 226~227	3
	1-4 情報セキュリティと情報モラル	①情報セキュリティ ②情報モラル ③知的財産の保護と活用	D(1)ア D(1)ア D(1)ア	228~231 232~233 234~237	3
	2-1 双方向性のあるコンテンツによる問題解決	①問題解決の流れ 実習例1 安心して使えるメッセージ交換アプリ 実習例2 ネット対戦型タイピング練習 実習例3 防災地図アプリ 実習例4 ルート検索アプリ 実習例5 英単語の発音チェックアプリ	D(2)イ D(2)ア, イ D(2)ア, イ D(2)ア, イ D(2)ア, イ D(2)ア, イ	238~241 242~243 244 245 246 246	7
	2-2 計測・制御による問題解決	①問題解決の流れ 実習例1 立入禁止エリアを判断する金属回収ロボット 実習例2 自宅のセキュリティ対策 実習例3 自分の動きを計測するトレーニング補助装置 統合実習例 ミニ植物工場	D(3)イ D(3)ア, イ D(3)ア, イ D(3)ア, イ D(3)ア	247~248 252~253 254 255 256~259	8
	3 情報に関する技術の評価・活用	①情報の技術の学習をふり返ろう ②情報の技術と私たちの未来	D(4)ア D(4)イ	260~261 262~263	1
	学習のまとめ		D(4)イ	264~265	-
	技術分野の学習をふり返り、私たちの未来へつなげよう	①技術分野での問題解決をふり返ろう ②技術の工夫・創造と私たちの未来	A(3)ア, B(3)ア C(3)ア, D(4)ア A(3)イ, B(3)イ, C(3)イ, D(4)イ	266~267 268~269	1.5
	資料 コンピュータの基本操作 プログラミング		D(2)ア, D(3)ア	270~287	-
技術分野の学習を終えて		A(3)ア, B(3)ア C(3)ア, D(4)ア	291	-	
日本各地の伝統的な技・材料・工芸Map		A(1)イ, B(1)イ,	292~294	-	
携帯電話の利用 こんなときどうする？		D(1)ア	295~296, 後見返し④	-	
「技術」の未来は、私たちの手で		A(3)イ, B(3)イ, C(3)イ, D(4)イ	後見返し⑤ ~⑥	-	
				<b>計</b>	87.5